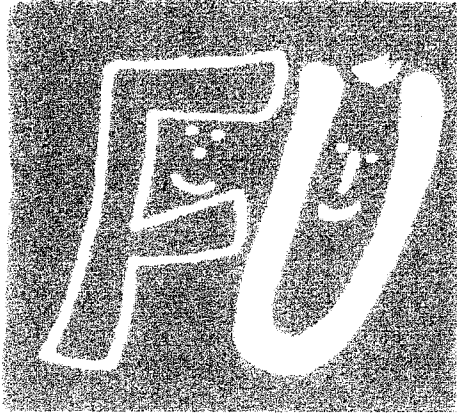


社会福祉法人ふたかみ福祉会

—かがやく命を大切にする社会をつくります—

2020(令和2)年度事業報告

2021(R3) /6/18
評議員会



法 人	1
はびきの園	2
ハピバール	4
ほまれっこ	6
はばたき	7
ほまれの里	9
支援センターはる	11
第三者委員会	15



2020(r2)年度事業報告

2021/3/31 現在

2020(令和2)年度事業報告

	理事会	評議員会	管理者 会議	主任副主 任会議	法人職員 会議
2020 4月			7・14・21	28	11
5月	29	評議員会	12・19	26	
6月		19	2・9・16	23	
7月	23		7・14・21	28	
8月			4・18	25	
9月			1・8・15	29	
10月			6・13・20	27	17
11月			10・17	24	
12月	1		1・8・15	22	
1月			5・12・19	26	
2月			2・9	16	
3月	23		2・9・16・30	23	6

上記会議 理事長・常務理事出席

主任会議
実践責任者会議
職員会議

法人事務局会議
班会議

2 危機管理委員会 19第4四半 第1四半期 第2四半期 第3四半期 第4四半期

第3者委員会	6/12	8/7	10/23	3/12	4/23
--------	------	-----	-------	------	------

3 研修

内部研修 研修委員会を中心に
法人間連携研修(府社協アウトリーチ助成ピヨピヨ福祉会(松原市)こごせ福祉会(富田林市)と

人材育成	10/31	11/21	11/16
人権研修	1/9		

4 人事

正規職員		正規外職員		無期転換	
採用	退職	採用	退職	転換	退職
1	2	2	1	0	0
※定年退職1					
育休	1	1			

5 事務局

1) 主な業務

法人運営	理事会、評議員会に出席。議事録の記録と作成、書類の整備
人事業務	各種必要書類(特に雇用契約書)把握、管理
給料業務	勤務シフト様式記入方法改定。
	IT導入補助金を活用したタイムカードの導入を検討
経理業務	報酬改定対応。各事業所経営分析を行い、増減状況報告
請求業務	一括請求。ソフトの入れ替えを行った。
その他	事務局員向け内部研修・危機管理、外部連携、その他

※吉川(吉川徹)社労士事務所委託

2020 (r2) 年度事業報告

2021年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
202 はびきの園	生活介護Ⅰ	30	32	h31/4/1-r7/3/31
	生活介護Ⅱ	7	9	h31/4/1-r7/3/31
202	就労継続支援B型	10	10	h31/4/1-r7/3/31
	就労移行	6	2	h31/4/1-r7/3/31

評議員会

職員配置数

事業内容	配置基準	比'管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
生活介護Ⅰ	12.5	1	1		12.5		1	2.5	5	12.5
生活介護Ⅱ	3.6	1	1		3.6		1			3.6
就労継続支援B型	2.1	1	1		2.1					2.1
就労移行	2.1	1	1		3					3

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男	0	10	11	9	1	1	0	32
女	0	4	7	7	2	0	1	21

利用者(支援区分)

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計
生活介護Ⅰ				1	6	14	12	33
生活介護Ⅱ							9	9
就労継続支援B	3			5	1	1		10
就労移行	3							3

利用率 当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員

(%)

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率
生活介護Ⅰ	101	95	101	93	91	97	100	97	97	94	98	100	97
生活介護Ⅱ	53	61	84	84	84	84	75	82	84	85	89	82	79
就労継続支援B型	83	79	89	88	77	75	88	85	85	83	86	88	84
就労移行支援	29	14	28	30	26	14	15	12	15	25	44	42	24
開所日数	22	23	23	23	23	22	23	22	23	23	20	23	

利用者工賃(就労継続紫煙B型)(円)

最高額/月	32,375	最低額/月	1,900	平均工賃/月	14,511
-------	--------	-------	-------	--------	--------

【事業所の特徴】

年度を通して新型コロナウイルスの影響を大きく受け、できる事を行いました。その中でコロナ対応に力を注ぎ、様々な工夫をしながらどうしたらできるか知恵を出しながら現状に合わせた日中活動を作ってきました。利用者・家族・職員の協力で控える部分と、積極的に前に出る部分を作ってきました。しかしながら、3月1日に職員から1名陽性者が出る事になりました。対応の結果、それ以上の広がりはありません、終息することができています。

新しく利用者を増やす事や大きな変化を作る事はできず、昨年度の状況を維持していくことで精いっぱいでした。新型コロナウイルスの影響で私達は今までにない経験をしています。その間不安と恐怖でいっぱいになり、何が良いのかもわからなくなる事もありました。事業所を開所していく事、利用者を守り、それを支える職員を守る経営を行っていく事を改めて確認し、今後につなげていきます。

今期は経営面と利用者の就労支援活動の収支を黒字に戻す事ができました。コストを削減し、収入を増やす事ができた事が影響しています。

利用者集団の大きさに差が出てきています。大き過ぎる集団は利用者が過ごしやすいように調整していく必要があると考えています。

【事業所運営に関わって】

- ・前半期には販売自粛の中で売り上げに影響が出ましたが、一方で下請けなど好調の部門もあり、後半にはネット販売などの登録を積極的に行ってきました。利用者の労働保障は一定の担保ができ、コロナ禍で工賃を下げる事はありませんでした。
- ・就労支援活動の収入目標を1200万を目指しましたが、到達はできませんでした。しかし、支出を徹底的に下げた結果、収支はかなり改善しました。
- ・給食は事業委託を行うという結論に達しました。4月から新しい業者(イフスコヘルスケア)に任せ、混乱が無いようにできる限り今まで行ってきた事を継承できるように引き継いでいきます。
- ・安定した事業所運営の為に月上限ギリギリまでの開所を行い、休日開所は15回実施しました。
- ・今年度は外部研修は管理者と資格取得の研修に限っての参加でした。内部研修は法人内で行い、リモートの環境を整え今後は外部研修にも参加しやすいようにしました。
- ・重度障害者支援加算を8月から取得しています。その分の加算が大きく運営を支えました。来年度体制を確保してからさらに取得範囲を広げ、収入増を見込みます。
- ・コロナへの対応や、行政から出される通知への対応等、きょうされんから情報を集めて対応してきました。行政に訴える場合は作業所連絡会を通じて組織として行っています。利用者に負担がないように適切に対応ができるように今後もそれぞれの団体と連携を強め対応していきたいと考えています。

【利用者支援に関して】

- ・前期と比較して順調に面談を行う事が出来ています。また、利用者の家族の高齢化で家庭訪問という形で面談をするケースがあります。
- ・利用者支援のスキルアップの研修は必要最低限にして参加し、資格取得などの研修が中心でした。
- ・ボーナス交渉は恒例行事になってしまいましたが、業績を伝えながら利用者と繰り返し交渉を進めました。一度目の話し合いで決まらない形を久しぶりに取りました。
- ・芸術活動での外部からの支援を計画していましたが、現場の準備が追いつかず実施しませんでした。
- ・きょうされんのグッズコンクールに2名の方が入賞しています。
- ・下請けが順調で、予算を大きく上回り、利用者も力を入れて取り組めるようになってきました。
- ・自治会活動は通常の実施はできませんでした。12月以降はリモートで各班を繋ぎ、月一回の利用者の会を行ったり、いろいろな行事を行ったりしました。
- ・「うぐいす」は毎週水曜日の取り組みで進めています。ほっとして過ごせる時間になっています。
- ・作業環境や手順を現状に合わせて整理を始めています。大きく変わる部分はありませんでしたが、今後も継続して進めていきます。

2020(令和2)年度事業報告

2021年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
204 ハピバール	生活介護	10	11	h29/4/1～2023/3/31
	就労継続支援B型	10	5	h30/4/1～2024/3/31

2021(R3)/6/18

評議員会

事業内容	配置基準	配管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
生活介護	2.5:1	1			6		1	3	2	7
就労継続支援B型	7.5:1	1			4			3		4

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男	2		3	2			2	9
女	2	1	2	2				7

利用者(支援区分)

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計	平均
生活介護				1	4	5	1	11	4.5
就労継続支援B	1			1	3			5	3.5

利用率 当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員

(%)

事業所名	ハピバール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用率
生活介護		218	228	226	245	236	232	247	229	241	214	214	243	104.0%
就労継続支援B型		51	47	66	76	73	72	75	65	55	68	68	80	29.9%
開所日数		21	22	22	23	23	22	23	22	23	22	20	23	266日
利用率		64%	63%	66%	70%	67%	69%	70%	66%	64%	64%	70%	70%	67%

利用者工賃(就労継続支援B型)(円)

最高額/月	11350	最低額/月	0	平均工賃/月	6368
-------	-------	-------	---	--------	------

【事業所の特徴】

四年目は就労継続B型3名、生活介護1名計4名の利用者を新しく迎え始めました。しかし、コロナウイルスの影響により、1回目の緊急事態宣言下では行事や外出もできず、職員の不足から時短開所となるなどイレギュラーばかりでした。

1回目の緊急事態宣言下の約2か月間はカフェもテイクアウトのみでの営業となり、大きな打撃を受けました。その後対策を実施しながら営業を行っていますが、出店イベントなども軒並み開催されておらず、厳しい状態が続いています。

なかなか外部とのつながりが持てない中、インスタグラムを活用して絵の写真を載せたりカフェのメニューなどを投稿するなどSNSを積極的に活用しています。

見学対応で4名、支援学校や他事業利用者などから実習で6名受け入れ、1名の利用が決定しています。まだまだ定員を満たしておらず、引き続き利用者確保へ向けた活動が必要です。

【事業所運営に関わって】

・仲間工賃について、利用者への工賃規定と口頭での説明に相違があったことで問い合わせがあり、規定通りの支払いをおこないません。来年度に向けて就労継続B型の工賃規定の検討を行いました。

・絵画販売の際の還元率については検討を行いました。現状の材料費などを考慮すると改定は難しいと判断しました。引き続き改定ができるように模索していきます。

・月に1回職員会議、カフェ、ワークスの各部門会議も月に2回ずつ行い、情報共有や検討をおこなっています。

【地域とのつながり】

・コロナの影響もあり、地域行事や近隣の学校との交流企画が中止になっています。10月から感染対策をしながら可能な範囲で西浦幼稚園との交流を再開しました。また、羽曳が丘幼稚園からも卒業制作にも協力しました。

・高鷲学園の「はじめましてcafe」に協力を行っています。

・イベントも開催に至っていませんが、今後はこの状況下でも繋がれる方法を考えていく必要があります。

・まちまるしえの看板作成に協力しました。

・1名のボランティアさんに定期的に来所していただきました。

【利用者支援に関して】

【労働】

＜カフェ＞

- ・コロナ禍の店内営業休止中にギフトボックスや紙袋に絵を描くことを開始しました。7月からのレジ袋有料化にあわせて、絵入りのギフトボックスや紙袋の販売も始めました。購入いただいた方からは「かわいい」と好評を得ています。
- ・カフェでグッズを購入いただいたお客様から商品を仕入れたいとお声がけいただくなどハピバールのグッズを販売していただけるお店が増えました。
- ・カフェでクッキーを作ってほしいとの依頼がありましたが、ハピバールでは製造できないため、はびきの園へお願いしました。また、クッキーなどのお菓子を卸してほしいとの依頼についてもはびきの園へお願いをしています。
- ・テイクアウトを開始しました。容器は少しずつ改良しています。
- ・PAYPAYの導入を行いました。
- ・仲間がカフェ業務に関わりやすいように模様替えを実施しました。

＜ワークス＞

- ・マリモさんに来ていただく曜日を予め設定し(基本第3火曜日)、新たな商品づくりを行っています。9月下旬には完成したエコバックを販売しました。Instagramに投稿を行うことで、それを見た方が購入に来店してくれました。
- ・ビッグアイ主催のaboutme～私を知って～に昨年に引き続き参加しています。コロナ禍において開催方法が変更になっていますが、年度後半には展示会やセミナーの開催、冊子の作成などが行われます。作品の展示に3名選出されました。
- ・堺プラザアートの審査員として仲間が1名選ばれました。また、同時開催のセミナーに職員が登壇しました。
- ・イチジク作業では、曜日によって午前、午後と分かれて作業を行っています。
- ・委託で古墳商品を納品しており、在庫の確認やお客様からの要望など販売先とコミュニケーションをとりながら行っています。
- ・仲間の絵をかいたうちわ、エコバックなどの新商品ができてきています。
- ・個展はコロナ禍においてたくさんの方に来ていただくことが難しいこともあり、いったん中断しています。今後は情勢を鑑みながら小規模で開催していきます。
- ・作品リース事業を新たに開始しました。
- ・産経はばたけアート展への応募を行い、1名入賞、2名入選しました。
- ・きょうされんグッズデザインコンクールで1名入賞、2名入選しました。

【生活】

- ・コロナ禍で就労支援収入が大きく低下しているため夏・冬ともにボーナスは0。5か月分の支給にとどまりました。それに加え若い利用者も増えたため今年は話し合いの回数を増やして丁寧に確認を行いました。取り組みでは支給額が少ないことに加え、コロナ禍で外出が難しいこともあり、近隣店舗でのテイクアウトを行いました。
- ・支援学校を卒業したばかりの利用者には給料の取り組みを実施しました。家庭ではなかなか使い道を決められなかった方や働いている仲間と一緒に給料を使うことで労働や対価について考えるきっかけになっています。
- ・コロナウイルスについての学習会を数回実施しました。回を重ねるごとに理解も深まりました。コロナウイルス対策として他にも事業所内や送迎車の消毒、手洗いやマスク着用の声掛け、食事時間の混雑回避、感染拡大期の循環バス利用者の送迎利用などの対策を行いました。
- ・夏場は、水分補給を増やしたり自分たちで作った梅ジュースを飲んだり熱中症の対策を行いました。その他、仲間の様子に合わせて対応していますが、ベットに横になる事もありました。
- ・週1回看護師、月1回医師による健康チェックをおこなっています。健康チェック表も、家族に滞りなく配布しています。データから分析を行う為、グラフの作成・入力を開始したことで変化がわかりやすくなっています。
- ・コロナ対策として自力通所から送迎に切り替えているなかまもおり、筋力の低下が懸念されることから、体を動かす取り組みを増やし散歩や体操を実施しました。
- ・フレスポが中止になったこともあり、ハピバールだけのミニ運動会を実施しました。

【集団】

- ・4名の新規利用が始まったことで、大きな変化が生まれています。若い仲間は職員とのかかわりを多く求める傾向があったり、働くということがはじめてのためなかなか作業に取り組みなかったりと、長く利用している仲間は我慢していることもあるためか、時折イライラを発散させてしまうこともありました。しかし、その一方で先輩として新人に対して優しく教え手伝うなどの様子が見られました。
- ・新しい利用者は若い方も多く、人との付き合い方や距離感、異性に対してなど成人としての関わりを学ぶ時間も必要です。
- ・利用者が増え、全員で16名と大きな集団となることから班分けをおこないました。

2020(令和2年)年度事業報告

2021年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	契約者数	事業有効期間
ほまれっこ	放課後等デイサービス	10	12	2018.5.1～2024.4.30

2020(令和2)年度事業報告

職員配置数

事業内容	配置基準	児発管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
放課後等デイサービス		1		2	2	1			1	7

契約者数(年齢)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3	計
男					1	1	1	1	2	3		1	10
女									2				2

利用率 当月延べ利用者数/(当月-8日)*定員

(%)

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
延べ利用人数	105	89	129	149	131	158	162	144	148	132	142	164	138
開所日数(提供日)	24	20	23	24	21	24	25	20	24	21	22	25	23
利用率	44%	45%	56%	62%	62%	66%	65%	72%	62%	63%	65%	66%	61%

事業所の特徴

昨年度高等部4名が卒業し12名のスタートとなりました。

前期は6月まで支援学校が臨時休校になりほまれっこで1日過ごすことになり、生活リズムが崩れてしまう児童が多かったです。2度目の1月からの緊急事態宣言中は、引き続きの手洗い・うがい・検温・消毒などは徹底し、利用状況に応じて安全確保をしながら活動範囲を広げていきました。

【事業所運営に関わって】

今年度も新規利用がなく支援学校、近隣の障害児相談支援事業所などに募集ビラを設置してもらいました。3件の問い合わせもありましたが、利用にはつながっていません。

利用率は低いものの、年度途中で職員の退職があったことで、職員の新規採用が3月までなかったことで人件費を抑えることができました。当初予算からみても収支としてはプラスになっています。

新型コロナウイルスの影響で他団体や他事業所との関わりがほとんどできず、メールなどでの情報交流しかできませんでした。

家族懇談会を開催し家族の要望や状況などを話し合うことができました。

学齢部向けの学習会を2回開催し「年金申請」「卒業後について」を学びました。

1月に車両を1台廃車し、中古車を購入しました。

【利用者支援に関わって】

○活動場所

石川河川敷・ごろごろ広場・畑薬師公園・ふるさと公園・近つ飛鳥公園・大泉緑地・しらとりの郷・石川河川公園・図書館・グレープヒル・シュラホール・玉手山公園・農林センター・森の郵便局・万葉の森・とんぼ池公園・八尾空港・原池公園・松原中央公園・どんずるぼう・八尾空港・寺が池公園・関西サイクルスポーツセンター・天王寺動物園など。

・コロナで活動の幅が狭まってしまった中でも、季節の行事を取り入れるようにしました。ハロウィン、クリスマス、お餅つき、節分、ひな祭りなど。

・毎年6月、3月に行ってきたバスツアーは、はびきの園の車両を借りていましたが廃車となったため、遠足として行いました。6月はコロナのため中止、3月は卒業生お楽しみ遠足として実施しました。

・高学年がほとんどで思春期であったり、自我の芽生えなどで揺れ動く心と体を職員が受け止めることで、自分を認められ相手を大切に思えるように支援しています。児童にかかわる家族の戸惑いや心配事には、連絡帳、電話、送迎時などで話を聞いて対応しています。

2020 (r2) 年度事業報告

2021年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
2021 はばたき	共同生活援助	23	23	平成30年10月1日～令和6年9月30日

2021(R3)/6/18

事業内容	配置基準	サビ管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
共同生活援助		1	1		3					5

利用者数(年齢)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	65歳以上	計
男			5	11	1			17
女			1	4			1	6

事業内容	非該当	1	2	3	4	5	6	計	平均 区分	平均 年齢	定員	建物
はばたき		1	1			2		4			4	府営住宅
第2はばたき					1	3	3	7			7	法人所有
第3はばたき					2	1	3	6			6	法人所有
あさがお						5	1	6			6	法人所有
計		1	1		3	11	7	23			23	

【事業所運営に関わって】

集団の暮らしを続けられるのか、不安な中での年度始めでしたが、感染症対策(手洗い・消毒・施設全体の消毒・食事は個食にするなど)に留意しながら「安心した生活」となるように事業を続けてきました。

ただ、リスクばかりを気にしてしまい、仲間の生活を豊かにするという視点は、どうしてもこの次になりがちな状況ではありました。

4月に緊急事態宣言が出た際、ガイドヘルパーが中止になってしまい、仲間がホームで出かけることもできない休日を過ごすことになってしまい、調子を崩す仲間がいました。通常の生活ができない不安、体を動かす機会などがほぼなくなってしまったことから、緊急事態宣言が明けてからは、ガイドヘルパーでの外出を再開しています。感染予防のため、事業所と連携し「密」を避ける場所、また携帯用のアルコール消毒液を持参するなどの対応はとりました。

誰か感染した場合に、ホームをまたいで感染することがないように職員のシフトの調整を試みましたが、その調整は難しくできませんでした。常日頃からの感染対策をと置き型のアルコール消毒液に加えて、職員に携帯用の消毒液を常に持ってもらい、感染症対策のマニュアルも説明し、対策の強化をおこなっています。

暮らしを守る職員としての意識をもてるように、会議などでは虐待について、人権についての情報共有をおこなっています。一人一人の生活歴や個性を尊重していけるように、学習の機会をつくっていくようにもしてきました。会議等では文献などを読み合わせして、障害のある人の支援の基本的な考え方を共有しました。また仲間のモニタリングをおこない、様々な仲間の顔・様子を職員間で共有することを大事にしてきました。

業務の煩雑さに「業務ができている」「できていない」という目に見えたことばかりにとられがちなので、福祉の仕事、ホームでの仕事について改めて考える機会をアルバイト職員にももってもらうために、面談(オリエンテーション)をおこないました。また、虐待防止チェックなどの仕事の「振り返り」をする機会をもてるような環境づくりをしています。

障害者権利条約の再読み合わせは、後期からおこしました。きょうさんのオンライン研修も並行しておこなっており、コロナ禍で外部研修が実現しにくい中での学習機会となっています。

【利用者支援に関して】

定例のキーパー会議では、参加者が多いと新たな仲間の姿を発見することができたり、発展的な発言が出てくることもあり、参加できる人が増えるように時間や勤務の配慮をしていけたらと思います。また、参加できない人の意見も吸い取ることができるように、会議前の事前アンケートをとりました。

家族の高齢化に伴い、通院や歯科通院も職員が受け持つことが増えてきました。現在365日利用をしている利用者の様子や母親が入院時に週末もホームで過ごしている様子を見て、今まで家族が担っていた通院をホームへと依頼してくるようにもなりました。全員の通院を担っていくことは体制上難しいところもありますが、家庭状況を把握しながら、担うことができたらと思います。

はばたきでは、隣に住む方から「大きな声で泣き声や叫ぶ声や物音がして、体調を崩している」という連絡がありました。防音設備(府営住宅なのでできる範囲が限られています)を設けるなどすることで、はばたきの仲間が住み続けることができるように、また隣の方がしんどくならないようにとの配慮をおこなって対応しました。

2020(令和2)年度事業報告

2021年3月31日現在

事業所名	指定事業名	定員	現員	事業有効期間
ほまれの里	短期入所	5	43	令和2年10月1日～令和8年9月30日

2020(令和2)年度事業報告

職員配置数

事業内容	配置基準	比'管	主任	支援員 (加算)	支援員	保育士	看護師	調理員	運転手	計
短期入所	5:01				8					8

登録者数(支援区分)

事業内容	1	2	3	4	5	6	計	平均
短期入所		1	5	7	6	13	32	4.8
	児童						11	

事業所の特徴

利用率 当月延べ利用者数/(当該月日数)*定員

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ほまれの里	58	3	49	49	75	81	75	93	85	77	80	97

【事業所運営に関わって】

上半期に引き続き新型コロナウイルス感染症への対策を行いながらの運営が続いています。幸いこの1年を通してほまれの里の利用者やその家族、職員に陽性者または濃厚接触者が一度も出ることがありませんでした。ほまれの里はグループホームと違いふたかみ福祉会以外の法人や児童など所属が様々であることから利用者の体調や所属先での感染状況などを意識しながらの受け入れが必要です。2020年度のほまれの里での生活はコロナ禍が始まる以前とは違った1年となりました。多くの利用者は個室で過ごすことが中心で落ち着いて過ごしているように見えますが、このコロナ禍の中であっても本人がほまれの里でどう過ごしたいか、来年度以降もあらためて検討を進めていきます。

利用数、契約数については他法人、または学齢期の契約希望や問い合わせが増えている状況です。反対にふたかみ福祉会の新規契約はほまれっこ利用者を覗いて1件となっています。また2022年5月開所予定のグループホームにほまれの里を利用している利用者が大半利用する予定になっています。

①安心と自分らしい生活を保障します。

・個室での個食、マスクの着用は上半期に引き続き取り組んできました。手洗いや手指の消毒、検温の徹底に関しても引き続き取り組んでいます。

・上半期には極力閉鎖していたリビングで徐々に過ごす時間が増えました。上記で述べたようにリビングでの食事はおこなっていませんが、職員、他の利用者とテレビを観て雑談をする時間を取る様子も見られています。密にならないことと、利用者のマスクの着用の声かけ等行いながら引き続き注意していきます。

・この1年で学齢期の児童の契約がさらに増えました。夜間帯での多動、敷地外への抜け出しなど心配されたケースも複数ありましたが少しずつ回数を増やすことでほまれの里での生活にも慣れてきた姿が見られています。

②利用しやすい事業所を目指します。

・上述したように学齢期の希望が増えており、全ての利用者を対象にはできていませんが、送迎が必要と思われる利用者の学校への送迎は引き続き行っています。

・連泊を希望する利用者が少しずつ増えてきています。希望通りに受け入れる枠を調整することは困難な状況が続いていますが、家庭状況等を見ながら調整を行っています。

・コロナ禍ではショートステイを縮小して運営する事業所が増える中、感染症対策を行いながらできるだけ希望にそって受け入れるよう努力しました。下半期は利用人数も回復し、また2回目の緊急事態宣言時で利用者からの利用控え等はありませんでした。

③利用者が気持ちよく過ごせる環境を作ります。

・畳の代わりにクッションシートを購入しました。畳よりも汚れにくく衛生的に使用することができています。

・感染症対策の一環で共有スペースの廊下、リビングに空気清浄機を導入しています。さらにオゾン脱臭機も導入しています。

④利用者の安全を守ります。

・コロナ感染者が増加する中、利用者に対してほまれの里利用する際の体調不良時の自粛等のお願いを配布しています。

・毎日の居室の換気、手すり等の消毒の徹底を行っています。

・グループホームと連携して夜間の安全点検の実施を行っています。

・服薬管理についてチェックシートを新たに作成し職員、夜間職員が共有できるようにしました。

・利用者の飛び出しや、防犯に備え防犯ブザーを設置しました。ブザーはあくまで補助とし、引き続き、利用者の動きを把握していけるよう注意していきます。

⑤人材の確保、育成を行います。

・kp会議は継続して行い上半期同様時間を短縮しながら開催しています。参加する職員が限られてきた課題はありますが気づきなどを共有しあう場となっています。

・それぞれが自分の仕事に対を振り返ることができるよう全職員が振り返りシートと虐待チェックシートに取り組みました。またKP会議に参加するKPが限られていることから振り返りシートを活用しながら個人面談を3月から実施しました。

2020(令和2)年度事業報告

支援センターはる

2021/3/31

現在

1 相談支援事業

2020(令)	名称	住所
	支援センターはる	羽曳野市誉田七丁目808番地1
2021(R3)/6	指定事業名	事業有効期間
	評議員会	2020(r2)/4/1-2021(r3)/3/31
	指定特定相談支援	2018(h30)/4/1-2023(r5)/3/31
	地域移行支援	2019(h31)/1/1-2024(r6)/12/31
	地域定着支援	2019(h31)/1/1-2024(r6)/12/31

-1 職員配置

管理者(兼相談支援専門員)	1	羽曳野市相談支援事業委託
相談支援専門員	4	
ケアマネジメント推進員(障害分野)	1	市相談支援機能強化推進事業
聴覚ピアカウンセラー・手話通訳者	2	内手話通訳者1名(毎月曜日1.3木曜日)
肢体・視覚ピアカウンセラー	2	随時、電話予約対応

羽曳野市地域自立支援推進会議事務局

-2 主たる業務

(1) 羽曳野市委託相談支援

1) 個別相談

令和2年度 相談者数 (998)名(延べ)※重複障害はそれぞれにカウント

市町村	障害	実人数	身体障害					重症心身障害	知的	精神	発達	高次脳	難病その他
			肢体	聴覚	視覚	内部	その他						
羽曳野市	一般	289	28	36	2	1	6	7	175	65	7	1	21
	計画	693	80	12	29	1	27	50	504	122	2	0	31
その他市町村		16	0	10	0	0	0	0	6	0	0	0	0
合計		998	108	58	31	2	33	57	685	187	9	1	52

(実施方法)

支援方法	件数	
	一般相談に係る件数	サービス利用契約者に係る件数
訪問	95	393
来所相談	31	49
同行	30	55
電話相談	515	2053
電子メール/FAX	52	81
個別支援会議	26	26
関係機関からの紹介	0	0
その他	11	7
合計	760	2664

支援内容	一般相談に係る件数	(再掲)	
		ピアカウンセラー支援件数	サービス利用契約者に係る件数
福祉サービスの利用等に関する支援	402	10	1731
障害や病状の理解に関する支援	12	0	93
健康・医療に関する支援	139	0	410
不安の解消・情緒安定に関する支援	29	0	73
保育・教育に関する支援	22	0	9
家族関係・人間関係に関する支援	128	0	132
家計・経済に関する支援	57	0	117
生活支援に関する支援	251	0	455
就労に関する支援	35	0	68
社会参加・余暇活動に関する支援	30	24	11
権利擁護に関する支援	23	0	38
その他	53	24	40
合計	1181	58	3177

※電話相談・電子メールは、問題状況が軽減されたり、の方向に向かった場合に計上する。日程の連絡などものは含まない。

2)ピアカウンセリング

- 聴覚障害相談(視覚・肢体ピアカウンセリングは予約相談)
- ピアサロン 茶話会&フェイスシールド作り(8月17日)
- 認知症サポーター養成講座(2月15日)
- *羽曳野市地域包括支援課の協力

3) ネットワークの形成

羽曳野市地域自立支援推進会議

- 全体会(10/27 3/30) 運営会議(7/9 8/7 10/7 12/16 2/5)
- 10/27 障害福祉計画及び障害児福祉計画について
- 3/30障害福祉計画及び障害児福祉計画について
- 新型コロナウイルスワクチン接種に関して

○部会・懇談会

事業所連絡会運営会議(9/25 1/25)

「相談支援部会」(7/14 11/17)

「放課後等ディサービス懇談会」 7/7

新型コロナウイルス感染症拡大防止及び緊急事態宣言のため、中止した部会等

「共同生活援助事業所懇談会」書面による情報収集と共有。

「日中・就労支援部会」 書面による情報収集と共有。

重症心身障害者事業所懇談会

「事業所連絡会」全体会

その他のネットワーク

南河内支援センター連絡会(8/5 2/8zoom)

羽曳野市地域福祉専門職ネットワーク研修会(10/30 11/20)

4) ケース会議の開催

5) 広報活動・情報収集活動

6) 認定調査(66 件)

(2) 指定特定相談支援事業(羽曳野市)

・サービス等利用計画作成

実人数135名

(3) 指定一般相談支援事業(大阪府指定)

・地域移行支援

1名 実人数

・地域定着支援

2 南河内北障害者就業・生活事業（羽曳野市・松原市・藤井寺市）

2008年度より国の事業に

名称	住所
南河内北障害者就業・生活支援センター	羽曳野市白鳥3丁目16番3号

職員配置

管理者	1	雇用安定等事業
主任就業支援担当者	1	
就業支援担当者	2	
生活支援担当職員	1	生活支援等事業・体制強化事業
生活支援担当職員	1	府生活支援等事業

1. 就業・生活支援活動の実績

(1) 就業相談

4月～3月 登録者数 550名

①（現状および障害別内訳）

就業状況	障害			その他		合計
	身体	知的	精神	発達	高次脳	
在職中	16	210	80	4	0	310
求職中	19	65	97	2	1	184
その他（訓練等必要な人）	3	21	31	1	0	56
合計	38	296	208	7	1	550

※障害のその他とは、障害者手帳を所持していない方

②障害者に対する相談・支援件数

身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計
116	918	694	3	1731

※相談・支援内容は、面接・電話・家庭訪問・ケア会議・職場実習支援・就労定着支援・生活支援等

○ 羽曳野市障害者雇用相談 羽曳野市の委託事業 相談件数:17件

○ 藤井寺市障害者雇用相談 藤井寺市より依頼なし

(2) 職業準備訓練から就職・職場定着にいたるまでの支援

①訓練のあっせん

- 基礎訓練9名（併設施設および提携施設）
- 職場実習10名（知的2名、精神 8名、その他0名）

②職業評価

2名（大阪障害者職業センター南大阪支所に実施依頼）

③就職支援

ジョブコーチ支援2名
 トライアル雇用（3か月の試行雇用）を1件実施。
 就職者数27名（知的22名、精神5名、その他0名）

(3) 就職者に対する支援

- ①定着支援 定着支援件数 179件
 企業訪問のうち、職場訪問により定着支援を行った件数
- ②余暇支援活動（はるくらぶ）

- (4) 事業所への支援
事業所支援 648件 事業所 136事業所
2. ネットワークの形成
- 定例参加会議（主なもの）
 - 大阪障害者就業・生活支援センター連絡会
 - 羽曳野市地域自立推進会議
 - 松原市地域自立支援協議会
 - 藤井寺市障害者地域自立支援協議会
 - 南河内支援学校進路指導会議
 - 第16回 南河内北 障害者就業・生活支援センター運営会議の開催
新型コロナウイルス感染防止のため中止
 - 障害者の就労を支援する機関との連絡会（ジョブネットトライアングル）
 - 参加事業所内で運営チームを形成
 - リモートでの会議を実施
 - モート会議を実施
3. 生活面での支援について
- ケース会議の開催
人数制限を設けながら少しずつ実施。
 - 当事者交流会
4. 障害者雇用に関わる啓発活動
- 障害者雇用フォーラムの開催 新型コロナウイルス感染防止のため中止
5. その他
- 障がい者就労支援フェスタへの協力 新型コロナウイルス感染防止のため中止
 - 医療ニーズのある精神障がい者の就労支援連携事業への協力
新型コロナウイルス感染防止のため中止

第3者委員

社会福祉法人ふたかみ福祉会第3者委員会活動報告

	20(r2)年度第1四半期	20(r2)年度第2四半期
日時	2020/8/7 16:30	2020/10/23 16:30
場所	支援センターはる	支援センターはる
2020(令)	袴田委員 佐野委員 石本17:00 八木、	袴田委員 佐野委員 八木、石本 関口コ、
	<p>○はびきの園 班に未計上の授産金額があった。入金確認と役割を分担 家庭内の虐待案件放置市への報告。相談事業所,HPより 苦情:送迎運転手の対応が雑で悪い。 忘れ物、車両半ドア、入歯忘れ→年度初めに多い 同一利用者への配慮 車両事故多い 市販薬の持ち込み注意 ○ハピバール こだわりで特定の利用者への他害行為</p> <p>○耕房 食材費の紛失 服薬ミス3件 家族の苦情対応で職員疲弊 ○ほまれっこ 不適切な支援。市への報告案件</p>	<p>○はびきの園 車に乗せたまま利用者を残して、職員だけで買い物に。家 族からの通報で発覚。職員全体で共有した。 ・車両にたばこが残ったままにある。 ・リフト車走行中に車いす転倒。職員間で共有。 ・車検、オイル交換等決めているがうまく作動していない。車 両点検ディを設定しては。 ・スペアタイヤのチェックを行う。 ・食品賞味期限切れの件。 ・カニカマを給食で提供、カニアレルギー利用者ありのた め。再度調理と共有。 ・納品ミス。チェック機能を</p> <p>○大西c ・冷蔵庫あった生肉を食べた。 ・入浴を知らない間に。施錠忘れ。 ・食事の配膳kpがおこなっている。滑らないトレイなど、利用 者の状況に合わせて自分でやりたい人の対応も ・車両接触同じ人が2回あった。 ・服薬ミスのごとがすごく減ってきている。</p> <p>○ほまれっこ 虐待事案 クールダウンできる部屋に連れていく。職員にプ ラスの評価をしていけるように。 市の聞き取り後に、通報者も「いわなければよかった」という 言葉があった。</p>

3

	20(r2)年度第3四半期	20(r2)年度第4四半期
日時	2021/3/12 16:30	2021/4/23 16:30
場所	支援センターはる	支援センターはる
出席者	袴田委員 佐野委員 八木、石本 関口コ、	袴田委員 佐野委員 八木、石本 関口コ、
	<p>○はびきの園 ・新型コロナ発生以降の経過報告 ・車いすシートベルト付け忘れ。しっかり確認を リフト車エンジンきり忘れ。後退時の接触。車両半ドアの確 認を 作業室に職員は1人はいているように 受け入れ時の送迎者下車後の体制の確認 服薬管理:各班で管理。全体で把握を行っている。職員一 人一人に朝礼時に役割を確認する。服薬管理など固定的 な役割でなく、その日に意識できるように。ダブルチェック体 制も毎回役割を決める。</p> <p>○HB 車両とバイクと接触 綱引きをするがひもが細く切れた。的確な道具の使用を</p> <p>○まっこ はだして歩き切り傷に。環境整備を 苦情 連絡帳以外でも電話でのやり取りもし、直接的なやり 取りを</p>	<p>○はびきの園 ・車中で利用者の靴を窓より捨てる。 シートベルト着用 ・車両 メンテナンスチェックシートの活用。定期的なチェッ クを ・送迎ミスが多い出発前にチェックを ・事故後の対応で、もしものためにすぐにフォローできる体 制を ・給与渡し忘れと、間違い。 ・マスクの着どこまでできているか</p> <p>○HB ・食器のハイター・クレンザーの件 2/10 2/16続いている。 共有できていれば、2/16のヒヤリはなかったのでは？ ・ハイター等は保管庫で管理。使用後の殻の容器の処分にも 安全管理を。</p> <p>○GH 利用者対応で家族からの配慮がされておりよかった。 預り金の紛失 服薬ミス:服薬確認者の設置。と服薬者と確認。服薬後の確 認をしている。 常勤職員が服薬のセットを行う。服薬後の殻袋を持って帰っ てもらい確認できるようにしている。</p> <p>○ほまれっこ 後ろから見守りながら歩いていてぶつかったが、見守りもで きており、良い取り組みでは</p>